取組み進む林業の成長産業化

CLTの利用拡大
バイオマスの高効率利用

日本は資源輸入国と言われる。しかし、日本はその面積の3分の2を森林で覆われている森林大国であり、森林は大きな資源だ。さらに、日本の森林は戦後植林された針葉樹を中心に今伐期を迎えている。この資源を活用するためにも、林業の成長産業化は必須となる。林野庁でも林業成長産業化総合対策事業30億や森林・林業人材育成対策事業等で積極的に支援を行っている。先ごろ開催された地方農政局、森林管理局長会議では、各森林管理局から28年度の取組状況が報告された。

木材生産性向上に向け様々な取組が進む

「攻めの農林水産業」の実現に向けては、林業分野では、いかに林業を成長産業とできるかが重要となる。そこで、林野庁では、30年度の概算要求で新たに「林業成長産業化対策事業」を計上。300億円と大規模な支援を行うこととしている。

こうした「攻めの林業」が各地でどのように展開されているか。9月21日に農水省内の講堂で開催された地方農政局長・森林管理局長会議では、これまで各森林管理局長から取り組みが報告された。

【北海道森林管理局】道産CLTの利用拡大向け、北海道では協同組合オホーツクウッドピア（北見市留辺蘂町）が道産カラマツによるCLT生産工場として、平成29年2月にJAS認定を取得。知内町では、30年3月完成を目指し、道産CLT（オホーツクウッドピアで製造）を使った3階建ての地域産業担い手センターを建設するなど取り組みが活発となっている。

木質バイオマスの利用推進に向けては省力化や燃料費の節約に資するボイラーの技術開発を進めることが必要として、その一例として、ヒグマ乾燥機㈱（北海道旭川市）を挙げた。

同社では、ペレットやチップではなく間伐材や製材端材などをそのまま燃料とし、独自の燃焼システム低コストで長期間安定した熱を供給できるボイラーの製造を開始。このボイラーは現在、道内の製材工場や東北の農家等に導入されており、今後、農業ハウス、畜舎、工場、集会場など幅広い分野で木質バイオマスの効率の高い熱利用が実現できると期待されるとしている。

また、北海道では、笹の繁茂が旺盛で造林木を笹の被圧から守る下刈り作業に多くの労力、コストがかかっており、大きな課題となっている。そこで、北海道森林管理局では、28年度から伐採作業直後に素材生産機械を利用して笹を根茎から除去する方法を開発し、全道に広げた。さらに29年度は請負事業体自ら大型林業機械を改良し、更なる効率化を目指す取り組みも推進。これまでの大型林業機械による地拵えでは造林木の生長に重要な腐葉土層が笹の根茎などと一緒に除去されていたが、新たに格子状に改良したバケットを用いることで苗木の成長の栄養となる腐葉土層を残した地拵え作業を可能としている。

【中部森林管理局】同管理局では、「伐採・造林一貫作業システム」を主伐予定箇所の大半で実施（29年度主伐予定28カ所のうち、25カ所）しており、管内の植付に占めるコンテナ苗の使用割合が28年度の約7割から29年度には約9割（約38万本）に増加している。また、生産性向上のため全署等に設定したモデル事業地で新たな取組として、局の部課長、外部有識者等による技術指導チームを編成し、伐倒、集材等の各工程の人・機械の遊び状況を確認。作業システムの改善等を助言する取り組みを29年度から開始した。

ニホンジカ被害対策として、中部森林管理局では、地元自治体や猟友会、学識経験者等と連携した個体数調整をさらに進めるため、自動撮影カメラを28年度325台から29年度450台に増設。撮影データを猟友会等に提供。くくりわなの貸出数も27年度1499個から29年度2830個（予定）に増加させる。

近年は警戒心が強く捕獲しづらいスレジカが増えている。その対策として、新たに開放地と林内を行き来するニホンジカの習性を利用し、林縁部に誘導柵、誘引剤及びくくりわなを摂津市捕獲するとともにクマの錯誤捕獲対策として誘引式首用くくりわな等の新たな実証を行うなど地元と連携して対策を更に進める。

視点

木づかい推進月間始まる

伐期を迎えている日本の森林。これを活用するためには需要の向上が不可欠だ。林野庁は、平成17年度から、木材を利用することの意義を広め、国産材利用を拡大していくための国民運動として、「木づかい運動」を展開。特に、10月は「木づかい推進月間」としており、今年も様々なイベントが全国各地で開催される。

各都道府県では、住宅を含む木材利用に特化したイベントのほか、地域のイベントに参画する形で開催されているイベント、あるいは木工作品のコンクール等、様々な行事が開催される。

また今年度は、これまで「木づかい運動」のパンフレットとして活用してきた「木づかいブック」をリニューアル。新たに「明日にわたそう、森のバトン！木づかいブック」を1万部作成した。

新たな木づかいブックでは、暮らしの中での木づかいを提案するとともに、木づかいを行うことによる森林や環境、さらには日々の生活にどのような効果が生まれるかを詳しく紹介している。形状は幅広い世代、特に若い世代も手に取りやすいようコンパクトなものとなった。

同ブックは今後、各種イベントなどで配布される予定。

かぼちゃ集荷機発売
作業者の負担が大幅軽減

川辺農研

川辺農研産業＝川辺一成社長、東京都稲城市矢野口574－4＝は、こちゃ集荷機の開発依頼を受けており、昨年秋に北海道で試作機のテスト及び評価、今年の夏の改良版のテストを経て、今回「PC－120」として完成。10月に初ロット分3台を納品した。

「PC－120」によるかぼちゃの収穫作業

かぼちゃの生産では、他の重量野菜と同様、生産者の高齢化と農業人口の減少の影響で労働力が不足する事態が続いており、特に収穫作業の省力化が喫緊の課題となっている。

かぼちゃの集荷機は、これまで国内に適当な機械がなく、ニュージーランドのものは、大型すぎて国内の圃場には適さない為、これまでは手作業が中心となっていた。

今回、川辺農研が開発したかぼちゃ集荷機「PC－120」は、トラクタで牽引するトレーラータイプで、2つのコンベアからなる。最初に予めつるを切断したかぼちゃを横に張り出した1段目のコンベアへ載せれば、2段目のコンベアが自動的にコンテナの高さまで運ぶので、作業者の労働負荷の大幅に軽減が可能となる。

「PC－120」の特長は以下の通り。

【PC－120の特長】
▽トラクタで牽引するトレーラータイプ▽1段目のコンベアにかぼちゃを2段目のコンベアがコンテナの高さまで搬送▽コンテナを2つまで積めるので作業機上で選別しながら収穫作業が可能▽予備のコンテナを1個搭載可能なので、コンテナの入れ替えの時間も最短で済む。

【PC－120の仕様】
▽型式＝PC－120▽全長＝5340㍉▽全幅＝格納時：2820、展開時：5850㍉▽全高＝格納時：2370、展開時：1430㍉▽重量＝1350㎏▽適応トラクタ＝60～100ps。

※注文生産につき、納期・価格についてはその都度見積もりが必要となる。

甘藷洗浄機が話題
特殊ブラシロールが好評

ニシザワ

ニシザワ＝代表取締役社長　西澤准一、香川県仲多度郡多度津町北鴨3－1－50＝で販売している甘藷洗浄機「N－S3PⅡ」が全国で好評を博している。

甘藷洗浄機「N－S3PⅡ」

いま市場に出ている甘藷（さつまいも）は、日本だけでも数十種類以上があるといわれている。日本で一番早く収穫が行われるのは鹿児島県で、5～6月。甘藷は品種も多く、それにともない、洗浄機の活躍する場面も増える。その中で、「安全で、なおかつ使いやすい」といわれているのが、ニシザワの甘藷洗浄機「N－S3PⅡ」だ。

【特長】①特殊ブラシロールにより機械が水平でも根菜がスムーズに流れ、洗浄による詰まりの心配がない②高圧噴射による洗浄で、すみずみまで綺麗に仕上がる（別途　動力噴射機等が必要）③各ブラシロールにヒゲ根からみ付き防止装置付き、掃除も4カ所の点検口で簡単④コンパクト設計で、上部カバーにより水ハネも少なく、洗浄水も大径パイプからまとめて排水⑤上部カバーは大きく開放することができ、ノズル調整やメンテナンス・清掃も楽にできる⑥ブラシロールは樹脂材採用で芯材の腐り変形がない⑦大径ブレーキ付きのキャスターで移動も楽。

【仕様】▽型式・方式＝N－S3PⅡ・縦型水圧洗浄▽機体寸法＝幅580㎜×全長1800㎜×全高1050～1200㎜（ホッパー含む）▽重量＝約115㎏▽電源＝家庭用電源100V、出力200W▽噴射ノズル＝高級扇型ノズル16頭口▽ブラシロール3本▽用途＝甘藷等。

高い熱効率実現
小型電気乾燥機発売

紀業大産

電気乾燥機E－7Hプレミアム

食品電気乾燥機メーカーの大紀産業＝安原宗一郎社長、岡山市北区清心町3－3、電話086－252－1178＝は、2011年から発売している電気乾燥機「ミニミニⅡ」、「ミニミニDXⅡ」、「ミニミニDXⅡプレミアムS」を、リニューアルした新製品を10月から順次発売していく。

新製品は、電気乾燥機E－3H、同7H、同7Hプレミアムの3型式で、10月11～13日に千葉県幕張メッセで開催される農業ワールドに出展・展示する。

【主な特長】①断熱性と風量バランスを改良し、従来品よりも省電力化を実現②自社オリジナルの外形寸法60×60のハーフトレイを採用。従来のトレイに比べて、面積換算で1割増。トレイ底面の網目が9㎜角穴から4㎜角穴になり、細かな乾燥物にも対応できる。

③ダンパー操作が乾燥機の正面で可能④多種多様な機能をアップしながら据え置き価格⑤E－7とE－7プレミアムは、オプションで屋外排気が可能になった。

【販売価格と発売時期】▽E－3H＝運送費・税別価格15万8000円、10月出荷開始▽E－7H＝同26万8000円、11月出荷開始▽E－7Hプレミアム＝同40万円、18年1月出荷開始。

ナイルワークスが出展

ナイルワークス＝東京都渋谷区＝は、10月11～13日、幕張メッセで開催される第4回国際次世代EXPOで「自動飛行型農薬散布マルチコプター」を展示し、飛行映像でも説明を行う。

小間番号は、6ホールの40－1。

社長に辰野岳史氏

モンベル

モンベル＝大阪市西区新町2－2－2＝は、この度、臨時株主総会で役員の改選を行い、代表取締役社長に辰野岳史氏が就任した。新体制は次の通り。敬称略。

▽代表取締役会長兼CEO＝辰野勇▽取締役上席顧問＝真崎文明▽代表取締役社長＝辰野岳史▽専務取締役（営業部統括）＝工藤裕章▽同（総務部統括）＝山川靖夫▽常務取締役（北陸総合センター所長）＝西川一夫▽同（広報本部長）＝竹山史朗▽取締役（生産本部長）＝鈴木慎▽同（国際本部長）＝村上裕。

手動式の薬剤散布機
立木野菜・花卉用に最適

永田製作所

薬剤散布機「スプレーバギー8」

永田製作所＝田中寿和社長、大阪市西淀川区千舟1－5－41、電話06－6473－0835＝は、立木野菜・花卉用の手動式薬剤散布機「スプレーバギー8（エイト）」の拡販に注力している。

本機は、パイプ左右に散布用の扇型噴口を4カ所（計8カ所）設置したイヤが独特の構造。足回りは四輪のノーパンクタイヤを採用。

本体はスチール製で低重心、高い安定感を実現、移動と走行が簡単にできる製品になっている。本体寸法は、ハウスの収穫台車に合わせた大きさ。薬剤は全ての登録農薬が使用できる。

【主な特長】①低重心で安定感のある大型四輪タイヤにより、移動と走行が楽で、操作性がアップ②扇型ノズルを採用、噴霧口角度が自在になり、裏散布を可能にした。③8カ所ある噴口に、それぞれストップ機構（止水）を付け、無駄な散布を解消④噴霧管左右にバルブを取り付け、片側だけの散布も可能にした⑤作業者に合わせて、ハンドルの高さが調整できる―など。

【主な仕様】▽寸法＝タイヤ幅410×全輿810～990×全高1745各㎜▽質量＝16・4㎏▽ハンドル高＝800～980各㎜▽吐出量＝7.7ℓ／分（2.0Mpa時）▽水入口＝G3／8及びG1／4。